

2017年度学校経営シート

学校法人三重徳風学園
徳風高等学校 徳風技能専門学校

1 本校が目指すもの

(1) 目指す学校像

学校像1	十代後半の多感な思春期にさまざまな課題・背景を抱え、「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも何とか生きていこうとする子どもたちに対し、「自立と社会参加に向けた最大限の支援」を理念とし、仲間と共に学校生活を送る場を徹底して保障する学校 (No student left behind)
学校像2	生徒が、「社会人として必要な基礎的・基本的な学力」と「職業人として必要な実践的な技能」を身に付け、入学時に想定されたよりも大きな成長を遂げて卒業する学校 (Overachievement and social participation)
学校像3	生徒が「この学校で学べて良かった」、保護者が「この学校に通わせて良かった」、教職員が「この学校で勤務して良かった」と心から思える学校 (We love "Tokufu.")

(2) 目指す生徒像

生徒像1	自己成長感（「できなかったことやあきらめていたことができるようになった。得意だったことがもっと得意になった。」という実感）、自己効力感（「どのような問題でも、関連する知識を身に付けたり情報を得たりして努力・工夫すれば、ある程度は解決できる。自分もやればできる。」という実感）、自己有用感（「集団や社会の一員として自分は確かに役立っている。」という実感）を持った生徒 (Self-esteem)
生徒像2	自己指導能力（その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、自ら考え、判断し、行動する能力）を持った生徒 (Self-guidance)
生徒像3	ソーシャル・スキル（他者と良好な関係を形成・維持していくための知識・技能）を身に付けた生徒 (Social-skills)

(3) 目指す職員像

職員像1	目指す学校像・生徒像の実現に使命と情熱を感じる利他の精神 (Altruism) を体現した職員
職員像2	目指す学校像・生徒像の実現に向けて主体的に職能成長を続ける専門職 (Profession) としての姿勢を体現した職員

2 当面の重点実践項目

本校独自の特色ある教育活動や仕組み等を「徳風スタイル」として整理しながら、「目指す学校像・生徒像」の実現に向け、ドッグケアコース及びパソコンコースの卓越性を維持するための取組を進めるとともに、特に総合コースの教育活動の質的充実を図ることに注力することとし、当面は次の4つの取組を「重点実践項目」として計画的に実践します。

重点実践項目	計画概要
1 自学自習方式による「積上げ学習」の実施	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度から、総合コースの選択講座「グローバル・コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の受講生を対象に英語の公文式教材を新たに導入。 その成果と課題を検証し、平成31年度から毎年度、総合コース1・2年生を対象に、英語・数学・国語の公文式教材による「積上げ学習」を導入。
2 知識活用型授業・課題解決型授業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度中に、全教員を対象に授業改善研修を実施。 「主体的・対話的で深い学び」を追求する授業を全教科で実践できるよう、平成30年度から授業研究を全校体制で実施。

3 ソーシャル・スキル・トレーニング (SST) の実施	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度中に、全教員を対象にSST研修を実施。 平成30年度入学生を対象に、正規の授業として新たに実施。 その成果と課題を検証し、平成31年度から毎年度、入学生を対象に実施。 「SSTと言えば徳風」との評価が定着することを目指す。
4 社会体験活動の強化	平成31年度から毎年度、2年生を対象に、1年次でのSSTの成果を活かした学習活動として、各コースで公用車を有効活用しながら社会体験活動を実施。

3 本年度の計画と自己評価

以下において、「目指す状態」欄には概ね3年後に実現したい状態を、「実践内容」欄には目指す状態を実現するために本年度実施する内容を、「評価指標」欄にはどうなれば概ね満足と自己評価できるかという指標を、「結果」欄には「実践内容」と「評価指標」について自己評価した結果を、「行動計画」欄には自己評価の結果を踏まえた次年度の計画を、それぞれできる限り具体的に記入しています。

(1) 教育活動

ア 学習指導

現状と課題	共通的な取組よりも各教員の主体的な工夫に任されている。今後は、「主体的・対話的で深い学び」について校内研修等を行い、共通理解を深める必要がある。		
目指す状態	基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を目指す「積上げ型授業」と知識・技能を活用して問題解決等を図る「知識活用型授業・課題解決型授業」がバランスよく展開されており、生徒が自己成長感・自己効力感を実感しながら学力を向上させている。		
実践内容	①「授業研究プロジェクト」の立上げ	結果	2学期に立上げ
	②授業参観シートの作成と試用		2種類（通常授業用及びアクティブラーニング型授業用）作成し、3学期に行った研究授業で試用。
	③公文式教材の活用方法の調査研究		3学期に実施
評価指標	生徒満足度調査において「学力が向上した」と回答した生徒、職員満足度調査において「授業力が向上した。」と回答した教員が各6割以上		該当生徒 55.1%、該当教員 36.9%
行動計画	「授業研究プロジェクト」を活性化させ、作成した授業参観シートの有効性を検証する。また、公文式教材の最適な活用方法を探究する。		

イ 生徒指導

現状と課題	生徒指導に関する取組への理解・姿勢に教員間格差がみられるため、徹底した共通理解・共通実践と学び合いが必要である。生徒については、SNSを介したグループ内・間トラブルへの対応や、特に女子生徒に対する個別相談への対応の充実を図る必要がある。		
目指す状態	全教員が、生徒の自己指導能力（その時、その場で、何をすべきで、何をすべきでないかを自ら考え、判断し、行動する能力）について共通理解し、全教員の総意で決定した取組を共通実践している。		
実践内容	①頭髪・服装指導に関する共通実践としての取組年3回以上実施	結果	年8回実施
	②非常勤講師を含む全教員による年間を通じた共通実践項目1つ以上の決定と完全実施		スマートフォンの個人使用について実施
	③特別支援を必要とする生徒に関するケース会議又は事例検討会を年10回以上実施		学年ごとに多数回実施
評価指標	問題行動による特別指導件数年5件以内		年13件

行動計画	生徒指導の年間指導計画の中で、年間及び特定の時期の重点指導事項を示し、生徒指導部主導の全教員による共通実践を徹底する。
------	---

ウ 進路指導

現状と課題	自分の進路決定に依存的で、自らの責任で進路実現を果たそうとする姿勢に欠ける生徒が多い。インターンシップや企業見学に対し、生徒が主体的に取り組めるよう指導の充実を図る必要がある。		
目指す状態	生徒が、自分の進路について必要な情報を得たり教員・保護者等と相談したりしながら、主体的に考え、行動し、自らの責任で進路を決定する力を身に付けている。		
実践内容	企業・大学見学時のマナー、アポの取り方、面接の受け方などを計画的に指導する。	結果	計画どおり実施。
評価指標	希望どおり進路実現を果たした生徒8割以上		該当生徒は進学、就職ともに約8割
行動計画	現進路指導主事が長年培ってきたノウハウ、人脈等を引き継ぐ人材を育成する。また、関係機関等から提供される進路情報の整理に努める。		

エ 安全・健康指導

現状と課題	保健室を利用する生徒も多く、精神面も含めた健康指導や個別の相談業務など、種々の対応に負われる状態が続いている。今後は、専門スタッフの配置も視野に入れ、安全・健康指導に関する業務の適切な遂行方法について、抜本的に検討する必要がある。		
目指す状態	生徒が心身の健康を保持しながら安心して学校生活を送ることができるよう、安全・健康指導面での人的・物的な態勢が整っている。		
実践内容	①生徒に関する「情報共有ノート」の作成・活用（厳重保管） ②特別支援を必要とする生徒に関するケース会議又は事例検討会を年10回以上実施（再掲）	結果	保健室の入室システムを作成。 学年ごとに多数回実施。（再掲）
評価指標	心身の健康状態が年度当初に比して改善されたと考えられる生徒多数		該当生徒少数。
行動計画	生徒の心身の健康に関する情報を共有しやすい環境を一層整備し、次年度完成を目指す。		

オ 特別活動

現状と課題	友人関係が希薄化しており、自主的・主体的に考えて行動する姿勢や社会性に欠ける生徒が多い。今後は、互いにコミュニケーションを円滑に図りながら学校で集団生活を送れるよう、生徒の対人コミュニケーションスキルを向上させる必要がある。		
目指す状態	生徒が学校行事、生徒会活動などに積極的な態度で取り組み、集団の一員として自己有用感を実感しながら学校生活を送っている。		
実践内容	①生徒主体の学校行事（体育祭、文化祭等）の実施 ②社会的自立や社会貢献を念頭に置いた体験活動（ボランティア活動等）の実施 ③全教員対象のSST研修の実施	結果	体育祭、文化祭ともに生徒の主体性がやや弱い。 生徒会による亀山市社会福祉基金の募金活動を実施。 夏季休業中に実施
評価指標	生徒満足度調査で「コミュニケーション能力が向上した」と回答した生徒6割以上		該当生徒51.2%
行動計画	生徒会活動を活性化させ、SSTを教育課程に位置付けて計画的に実施する。		

カ 部活動

現状と課題	運動部、文化部それぞれ10部近く結成されているが、年間を通じて活動している部は多くない。また、PTA等が組織されておらず、東海大会・全国大会に出場する生徒に対する予算支援がないため、出場生徒の保護者の負担は大きい。今後は、先ずは生徒会が中心となって部活動の更なる活性化に向けた取組が必要である。		
目指す状態	多くの部が年間を通じて計画的・自主的に活動し、その成果が体育祭・文化祭や各種大会で発表・披露されることで学校に活気が溢れ、生徒の学校満足度を高めている。		
実践内容	生徒会による部活動活性化に向けた取組を指導助言する。	結果	実施できなかった。

評価指標	年間を通じて計画的・主体的に活動する部の数10以上	果	該当する部は、ソフトテニス部・卓球部・バスケットボール部・ドッグクラブの計4部。
行動計画	生徒会が部活動活性化のための方策を自ら提案できるよう、生徒会役員のエンパワメントを図る。		

キ 総合コース

現状と課題	生徒に複数の講座から選択受講させているが、希望者少数のため開講できなかった講座がある。各講座の一層の魅力化を図るとともに、特に本年度新たに開講したグローバル・コミュニケーション講座については内容の充実を図る必要がある。		
目指す状態	生徒が自己の目標、興味・関心等に応じて講座を主体的に選択し、意欲的に学んでいる。また、ネイルアート講座等では、多数の受講生が各自の目指す検定試験に合格している。		
実践内容	①ネイルアート講座の受講生が学習成果を校外で発表する場を年5回以上設ける。 ②グローバル・コミュニケーション講座について、英語の公文式教材の新規導入に向け、その効果的な導入方法等を検討するとともに、言語活動の多様性を確保する。	結果	年4回実施。 関係教員による打合せ数回、研修1回それぞれ実施。
評価指標	①ネイルアート講座等の受講生の6割以上が自己の目指す検定試験に合格 ②生徒満足度調査の結果、「選択講座の授業に概ね満足」以上と回答した生徒6割以上		該当生徒約7割 該当生徒約6割
行動計画	各選択講座の一層の魅力化を図るとともに、本年度新設したグローバル・コミュニケーション講座のシラバスを作成する。		

ク ドッグケアコース

現状と課題	生徒間で専門的な知識・技能に関する個人差が大きく、検定合格に向けたきめ細かな対策が必要である。また、生徒が身に付けた専門性を生かせる希望進路を実現できるよう、個に応じた進路ガイダンスと進路開拓に努める必要がある。		
目指す状態	犬との接し方や各犬の課題等の改善方法を「見える化」するなどして全生徒・教員が共有しており、生徒全員が目指す検定試験に合格するなどして希望進路を実現している。		
実践内容	①夏季・冬季休業中にトリミング講習会を学年・級別に5講座開講 ②特別支援学校、福祉施設等でのドッグセラピー実習を年10回以上実施	結果	計画どおり実施。 近隣の小学校での新規実施を含め年11回実施。
評価指標	①全生徒のドッグマスター検定合格及びトレーナー又はトリマー検定2級合格 ②生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒6割以上		○ドッグマスター検定76%合格 ○ドッグトレーナー検定3級100%、2級55% ○ドッグトリマー検定4級71%、3級33%、2級22% 該当生徒約7割
行動計画	各検定の合格率を向上させるとともに、ドッグケアコースのシラバスを作成・公表する。		

ケ パソコンコース

現状と課題	生徒のICTを活用したコミュニケーション能力に格差がみられる。		
目指す状態	関係するすべての授業で、生徒のコミュニケーション能力及び対人マナーの向上を意識した授業が展開されている		
実践内容	市民向けパソコン講座の講師として生徒を起用するとともに、受講者による生徒のコミュニケーション能力に関する他者評価を実施する。	結果	年2回の市民向けパソコン講座で生徒が受講者をマンツーマンで指導。受講者による他者評価は実施せず。
評価指標	市民向けパソコン講座のアンケート調査で「自分のコミュニケーション能力が向上した」と回答した生徒、「生徒のコミュニケーション能力に概ね満足」と回答した参加者各		該当生徒約10割、該当参加者約10割

	6割以上	
行動計画	「社会参画活動」を充実させ、ICT活用とコミュニケーション能力育成環境の相互効果について検証する。	

(2) 学校運営等

ア 教育環境の整備

現状と課題	防水工事や設備更新を必要とする箇所がある。計画的に対策を講じていく必要がある。	
目指す状態	工事・修繕等を計画的に行い、自然災害等が発生しても生徒・職員が安心して学校生活を送れる教育環境が整備されている。	
実践内容	①優先順位を付した「施設・設備改善5年計画」の策定 ②要修繕箇所の即時対応	結果 至急修繕を要する箇所及び段階的な修繕を要する箇所を洗い出し、業者から修繕費用の見積りをとった。5年計画策定には至っていない。 大雨時に一部崩落が危惧されるグラウンド下斜面の補強と桜の植樹、教育棟・管理棟のトイレや寮の浴室の水廻り等を修繕。 該当工事0件
評価指標	優先順位の高い防水工事の年度内着工1件	
行動計画	優先順位を付けた修繕計画を策定し、教育環境の改善に繋げたい。	

イ 組織運営

現状と課題	職員間・分掌間の連携・協力や職員個々の知識・経験・情報の共有があまり図られていない。今後は、その要因を探り、研修の充実や組織体制の見直しなど必要な対策を講じる必要がある。	
目指す状態	職員一人一人が職員間・分掌間で「報告・連絡・相談・確認」を繰り返しながら意欲的に職務を遂行し、役割間の隙間にある業務も「自分の仕事」という意識で果たしている。	
実践内容	①職員会議等での組織力向上に関する意識啓発 ②学校内外の成果や情報などの環流報告年10件以上	結果 職員会議配付文書「校長より」で啓発文6回提示 環流報告は主として文書回覧により多数回行われた。 該当職員少数
評価指標	報告・連絡・相談・確認が概ね適切にできる職員多数	
行動計画	組織的な業務遂行、意思決定に必要な組織人としての「振る舞い」を職員一人一人が身に付けられるよう、一層の意識改革を進める。また、学校を代表して出席する会議・研修会等の環流報告を一層促進する。	

ウ 学校満足度

現状と課題	生徒・保護者・職員の学校満足度を十分把握できていない。今後は、各満足度調査を実施し、その結果を学校運営改善に役立てる仕組みを整える必要がある。	
目指す状態	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を継続的に実施し、学校運営改善のための基礎資料として活用することで、三者の学校満足度は高い状態が続いている。	
実践内容	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査の方法を検討し、適切な時期に実施。	結果 各調査を12月に実施
評価指標	本学園に概ね満足している生徒・保護者・職員多数	該当生徒・保護者半数以上、該当職員少数
行動計画	今後も各満足度調査を引き続き実施するとともに、職員満足度の低い要因を探り、対応策を検討する。	

4 本年度の学校関係者評価

平成30年3月27日に学校関係者評価委員会を実施し、委員から出された主な意見は次のとおりでした。

- ・生徒指導上の問題行動による特別指導件数がやや多いのではないかと。
- ・「コミュニケーション能力が向上した」と回答した生徒約5割という結果については、本学園に限ったことではないように思われる。悲観する必要はない。
- ・「(2) ア 教育環境の整備」に係る実践内容として「優先順位を付した「施設・設備改善5年計画」の策定」とあるが、その要否について検討してもよいのではないかと。
- ・報告・連絡・相談・確認が概ねできている職員が少ないと自己評価しているが、組織の中で仕事をする者として当然のことができていないとすれば大変残念である。
- ・職員の学校満足度の低さについては、その要因を具体的に検証する必要がある。等

5 次年度に向けた主な行動計画

学校経営課題を次のとおり設定し、それらの課題解決に向けて取り組みます。

(1) 生徒募集について

生徒募集関係業務（中学校訪問、オープンキャンパス、入学試験）について、志願者・入学者増につながる効果的な在り方を研究し、できることから実施していきます。

(2) 学校経営の改善について

平成30年度中に「学校経営改善計画案」を策定します。

ア 総合コース再編案の策定

既設の「ネイルアート講座」、「グローバル・コミュニケーション講座」等のほか、ここのような講座を開設すればよいか、生徒募集につながる特色ある新たな講座の概要を本年度中に検討し、再編案を策定します。

イ 平日サポートコース（Bコース）の活性化案の策定

津駅から徒歩数分という「地の利」を生かし、生徒募集につながる魅力的な教育課程を編成するとともに、広報活動の強化を図ります。

ウ 新たな技能連携校の確保

平成29年度を最後に県外の高等専修学校1校との技能連携を取り止めたことから、新たな技能連携先となる高等専修学校1校の本年度中の確保を目指します。

(3) 徳風技能専門学校高等課程の教育課程について

現在の商業実務高等課程に加え、新たな高等課程を設置することも視野に入れて調査研究を開始します。